

瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口

令和6年10月1日現在

<目 次>

概 要	1
1 人口推移及び増減	2
2 人口推移及び増減【連区別】	2
3 自然増減・社会増減	3
4 自然増減・社会増減・市内転居【連区別】	4
5 地域別転入・転出状況	5
6 年齢3区分別人口の推移及び構成比	6
7 年齢3区分別人口の構成比【連区別】	6
8 年齢4区分別人口の推移及び構成比	7
9 年齢4区分別人口の構成比【連区別】	7
10 5歳階級別人口の推移及び人口ピラミッド ..	8
11 年齢3区分別・男女別人口一覧【連区別】 ..	9
12 年齢4区分別・男女別人口一覧【連区別】	9
13 男女別平均年齢一覧【連区別】	9
14 年齢別・男女別人口一覧【連区別】	10
参考 町丁名一覧【連区別】	22

瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口《概要》

令和6年10月1日現在

総人口 126,523人 前年に比べ 0.8%減

令和6年10月1日現在の総人口は126,523人で、前年を1,045人(0.8%)下回りました。

連区別人口増減

連区別にみると、自然増減、社会増減及び市内転居のすべてにおいて増加した連区は祖母懷連区でした。反対に、自然増減、社会増減及び市内転居のすべてにおいて減少したのは道泉、古瀬戸、東明、陶原、原山台、萩山台、八幡台、本地の8連区となりました。

自然増減・社会増減 自然増減 952人減 社会増減93人減

この1年間の出生者数は635人、死亡者数が1,587人で、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は952人の減となりました。

この1年間の転入者数と転出者数の差にその他の増減を加減した社会増減は93人の減となりました。

平均年齢 48.7歳 男47.1歳 女50.2歳

平均年齢は48.7歳となり、前年と比べ0.5歳上昇しました。

連区別にみると、平均年齢を超えた連区は11連区となり、萩山台連区で58.0歳、八幡台連区で56.4歳、品野連区で56.0歳、古瀬戸連区で55.1歳、原山台連区で53.9歳、深川連区で53.7歳と、平均を大きく上回りました。一方、平均年齢が最も低い連区は祖母懷連区で43.6歳、次いで山口連区で44.2歳となりました。

『瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口』は、住民基本台帳をもとに集計したもので、毎年4月1日、10月1日を基準日とし集計公表しています。

なお、令和5年9月に、塩草町の一部が塩草が丘1丁目から4丁目に町名地番の変更を行い、東明連区から祖母懷連区に編入されましたので、一部前年と比較し数値が大きく変動しています。

年齢3区分別人口 年少人口 365人減 老年人口割合 30.3%

年少人口(0～14歳)は前年より365人減少し、総人口に占める割合は11.7%で前年を0.2ポイント下回りました。年少人口の割合が最も高い連区は祖母懷連区(18.8%)で、水野連区(15.3%)、山口連区(14.9%)と続いています。最も低い連区は萩山台連区(6.4%)で、品野連区(7.1%)、古瀬戸連区(7.5%)と続いています。なお、全ての連区で年少人口が老年人口を下回りました。

生産年齢人口(15～64歳)の割合は58.0%で前年を0.1ポイント下回りました。生産年齢人口の割合が最も高い連区は菱野連区(64.1%)で、效範連区(62.3%)、長根連区(62.1%)と続いています。最も低い連区は八幡台連区(46.0%)で、萩山台連区(46.4%)、原山台連区(48.1%)と続いています。

老年人口(65歳以上)の割合は30.3%となり、前年を0.2ポイント上回りました。老年人口の割合が最も高い連区は萩山台連区(47.2%)で、八幡台連区(46.3%)、品野連区(43.4%)と続いています。老年人口(65歳以上)の割合が40%を超えた連区は6連区ありました。最も低い連区は菱野連区(23.3%)で、山口連区(24.3%)、長根連区(25.6%)と続いています。

※結果表等における構成比は、四捨五入した関係で一致しない場合があります。

※この冊子及び「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口」は、瀬戸市ホームページに掲載されています。

令和6年10月 瀬戸市 経営戦略部 政策推進課